

みんなで防災！2018

代表者 伏見和真（工学部安全システム建設工学科3年）

1. 目的と概要

この事業の目的は2点あります。1つは、香川大学も含めた地域全体の防災力を向上させることです。もう1つは、香川大学と香川大学防災サポートチームの取り組みを地域住民・学生に発信することです。1つ目の目的を細分化すると、準備や当日運営を通して参加学生自身の防災意識を高めることと、多くの人に防災に興味を持ってもらうきっかけの場としてもらうことを目的としています。より多くの人に防災に興味を持ってもらうために、特に子どもに防災に興味を持ってもらえる内容を実施しました。子どもが防災に興味を持てば、それぞれの家庭で防災について話し合うきっかけとなり、結果として地域全体の防災力向上につながると考えられるからです。そのために、消火器の使用体験や防災を学ぶための工作など、主に小学生以下の子どもを対象にした体験型の内容を中心に実施しました。

実施内容

- 避難所体験（段ボールベッド、避難ルーム、簡易トイレ）
- 水消火器体験
- 非常持ち出し袋の展示
- 防災を学ぶ工作（簡易雨量計、新聞紙スリッパ、簡易マスク、紙ぶるる）
- ハザードマップの展示
- 避難所生活に関する掲示
- 非常食の試食
- 西日本高速道路株式会社から提供いただいたパネル展示（緊急時の対応方法）
- 無線使用体験
- 以上のブースを回るスタンプラリー
- 香川大学防災サポートチーム（高松市機能別消防団・香川大学防災士クラブ）の活動を写真で紹介

2. 実施期間（実施日）

平成30年11月4日

3. 成果の内容及びその分析・評価等

当日の来場者数は 132 名でした。来場者に協力いただいたアンケートでその構成割合を調査すると、幼稚園児・保育園児・小学生とその保護者が最も大きかったものの(52%), 高校生と大学生の割合が当初の想定よりも大きかったです。(計 23%) 高校生と大学生の来場者が多かった理由としては、高校生が大学調べの一環として来場していたことと、活動学生の友人・先輩・後輩が来場していたことが考えられます。これは、学生が主体となって企画を立て運営をしていたからこそだと思います。

満足度では、90%の来場者に「満足」または「やや満足」と評価していただくことができました。その理由としては「非常食など普段じっくり見られないものを見ることができたから」や「見るだけでなく体験できる内容だったから」といった意見がありました。また、アンケートの自由記述欄では、「南海トラフ地震時の本州・四国間の物流について疑問に思った」や「災害時や平時に使えるロープワークを学びたい」など、この企画を通じて発災時や事前防災にさらに興味を深めた方もいらっしゃったようです。



水消火器体験



非常持ち出し袋の紹介



工作を通して防災を学ぶ家族



非常食を試食する家族

4. この事業が本学や地域社会等に与えた影響

大学祭という学生主体の催しの中で行ったので、地域の方に「大学生がしているならば私達も備えなければ」という意識を持ってもらうことができました。

地域の方や学生、本学を進路先として考えている高校生などに、香川大学と香川大学

防災サポートチームの取り組みを発信することができました。また、学生の来場者も多かったことから、高松市機能別消防団に入団したり大学が企画している被災地支援活動に参加したりする学生が増えることが期待できます。

さらに、来場者の多くにとって防災に興味をもってもらうきっかけの場となっただけなく、参加者が属している集団（例えば家族、会社、地域コミュニティ）へと、防災に関する知識・関心が広がることが期待できます。



5. 自分たちの学生生活に与えた影響や効果等

当日、被災地でのボランティア活動や避難所運営を経験した来場者と話をしている中で被災地での経験談を教えていただいたり、展示や掲示の方法についてアドバイスをいただいたりすることができました。また、来場者から質問を受けた際に、全て返答することができず、知識や経験不足を感じました。

また、この事業を通して、参加した学生それぞれが成長することができました。例えば、外部連携先（近隣小学校、企業、高松北消防署）の担当者の方と話をしていく中で電話やメールでの適切な言葉遣いを学んだり、他の人に仕事を頼む際にはどういうことに気を付けるべきかを学んだりして、さまざまな点において個人として成長できたと思います。さらに、この活動を通して、自分の得意なこと・苦手なことを発見できました。

この事業を通じて学んだことは、自分の知識として蓄え、今後の学生生活、就職活動、その後社会に出たときに活かしていきたいです。



消しゴムを彫って作ったスタンプ。

参加した学生がそれぞれの得意なことを活かした。

この事業に関わった学生には積極性があり、お互いに支え合う気持ちで活動できていたので、とても良いチームだったと思います。このような信頼関係の元、今後もさまざまな活動を展開していければと思います。

6. 反省点・今後の展望（計画）・感想等

反省点は2点あります。1つは、この事業に積極的に関与したクラブメンバーが少なく、メンバーの仕事量に偏りが生じてしまったことです。もう1つは、申請書類の準備が夏のインターンシップの期間と重なってしまい時間的にも体力的にも余裕がなかったことです。両方に共通して、クラブメンバーで仕事を分担できなかった理由としては、この事業が目指すイメージを初期の段階から共有できていなかったことで、多くのクラブ員に仕事を任せにくかったからです。事業の代表者として、一部のクラブメンバーに仕事ををお願いするようになってしまったことは心苦しかったです。この経験から、詳細の準備に取り掛かる前に、全員で完成形のイメージを共有しておくことの重要性を実感しました。

今年度の活動が好評だったことから、私たち香川大学防災士クラブは、来年度も同様の活動を行いたいと考えています。来年度は、PR用のチラシを近隣小学校以外にも配布することと、大人（子ども連れの家族以外）の来場者にも楽しんで防災に興味を持ってもらえる内容を増やしていきたいと考えています。

7. 実施メンバー

代表者	伏見 和真（工学部3年）		
構成員	南 琴実（工学部3年）	渡邊 慎吾（教育学部3年）	
	川合 大地（工学部4年）	足立 夏海（工学部4年）	
	萱原 正隆（農学部4年）	井上 夏実（法学部4年）	
	藤本 紗帆（工学部3年）	岩部 智花（法学部3年）	
	岡田 真実（法学部3年）	富永 真布（法学部3年）	
	福田 麻紀（法学部3年）	柴尾 葵（工学部3年）	
	高橋 葵（工学部3年）	古川 千晴（工学部3年）	
	西岡 葵（教育学部3年）	明石 崇史（工学部2年）	
	千葉 誠也（工学部2年）	堀江 優一（工学部2年）	
	宮崎 夢海（工学部2年）	本田 菫（教育学部2年）	
	富川 みう（法学部1年）	藤井 佑香（医学部1年）	

8. 執行経費内訳書

配分予算額		185,000円		
執行経費(品目等)	数量	単価(円)	金額(円)	備考
コピー用紙(A4)	1	20,365	20,365	
コピー用紙(A3)	1	841	841	
プリンタインク	6	4,471	26,826	
チラシ	1	10,080	10,080	業者発注
紙ぶるる	1	23,976	23,976	工作キット
ラミネートフィルム	1	12,376	12,376	
文具	1	3,147	3,147	
スタンプ消しゴム	2	528	1,056	
スタンプ台	4	755	3,020	
ブルーシート	1	4,201	4,201	
展示用防災グッズ	1	19,380	19,380	
展示用・試食用非常食	1	37,101	37,101	
非常食試食用消耗品	1	3,714	3,714	紙皿など
ラベルシール	1	755	755	
養生テープ	1	1,842	1,842	
残金(返金)	1	16,320	16,320	
合計			185,000	